

～スポットビジョンスクリーナーを用いた眼科(屈折・眼位)検査を行います～

「弱視」や「斜視」などの早期発見と治療のために行います

子どもの目の機能は3歳頃までに急速に発達し、6～8歳頃までにはほぼ完成します。

屈折異常や斜視に伴う片側又は両目の視力発達の遅れは、日常生活では気づかれないことが多く、正しく発達しないと弱視(メガネやコンタクトをしても視力がでないこと)になってしまいます。

3歳児健康診査における眼科(屈折・眼位)検査は、弱視を早期に発見して、適切な治療へつなげるための重要な機会となります。

検査は、保護者の方と一緒に写真撮影のように行います

- * ピントが合いやすいように、お部屋の中は少し暗くなっています。
- * お子さまは保護者の方の膝の上に座ってもらい、撮影します。前髪が目にかからないようにご協力ください。
- * 撮影するのは両目の写真です。お顔全体は撮りません。
- * お子さまに、ピカピカと光る画面を見てもらいます。お子さまが画面を見ている間に撮影します。
- * カメラから小鳥のさえずりのような音が聞こえます。シャッター音のような音は鳴りません。
- * 撮影時間は数秒～数十秒程度です。



検査で異常が指摘されたら

スクリーニング検査であり、診断はできません。子どもの目の病気は本人が不自由を訴えないことが多く、治療が手遅れになってしまう恐れがあります。見え方に問題がないように感じて、必ず精密検査を受けましょう。